

学習内容報告書

学校名	秋田市立旭北小学校
授業者	佐藤博美、佐藤雅典

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

秋田の海たんけんたい2021

1-2. 学年

第3学年 他

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

国語科、社会科、図画工作科、総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

本校は、昨年度初めて海洋教育パイオニアスクールプログラムの採択校となった。海はもちろん、山や川、田んぼなどが全くない秋田市の中心地で、官公庁や多くのビルに囲まれている中で生活している児童に、学習環境としての自然に触れる機会を多く設定したいと考えた。しかし、コロナ禍により、海に出掛けるなどの実体験は、昨年度ほとんどできなかつた。一方で、オンライン学習による情報収集や疑似体験など、新たな方向を見出すことができた。そこで、3年生の各教科の学習に関連させながら、より多くの共通体験を通して、「海とともに生きる」ことを実感できる単元開発を試みた。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

児童は好奇心旺盛で、様々な事象に対して豊かに感受している。この単元を展開することは、3年生の児童が海に親しみ、海のすばらしさを感じ取り、大切にしようとする心を育てていくのに適している。この事業により、児童全員で実際に出掛けたり、疑似体験するなど、共通の体験をすることが可能になる。また、様々な方法で多くの人に伝えることもできる。さらに、東日本大震災等の災害の教訓として危険回避や復興、人と自然との共存などにつながる素地を養うことも可能であろう。

学年全体でダイナミックな学習を進めることができ、新指導要領にも記されている、子どもたちが新しい時代に必要となる「資質・能力」の育成に大きな成果が期待できる。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

海洋教育政策研究財団「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」の海洋教育の4つのコンセプトのうち、昨年度は「海に親しむ」ことを1番のねらいとして進めた。（海を）「親しむ」ことができた児童が関心を強めている（海を）「知る」「守る」「利用する」資質や能力、態度を、海洋教育カリキュラム集を大いに参考にし、各教科の学習との関連を考えながら育てていきたい。また、指導する教師も海に興味をもち、そのおもしろさを児童に積極的に伝えていきたい。

1-7. 単元の展開（全47時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
25	<p>「旭北ジャーナル」で発信しよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○秋田市教育委員会主催の食育体験学習に参加 ○秋田市教育委員会主催の自然科学学習館での活動 ○3710ラボさんとのコラボ 	<p>秋田市教育委員会、秋田市民市場との連携 3710ラボさんとの連絡調整 オンライン環境の整備 家庭への協力依頼 など</p> <p>児童の目が外部に向き、海について広く考えるようになった。</p>
12	<p>秋田の海を表現しよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校内を海に見立てて、GIGA 端末で絵を描く。 ○国語科で「あきたのうみたんけんたい」を文頭に置いた詩を作る。 ○図画工作科で「海とさかな」の絵画創作 ○国語科で「海とさかな」の作文創作 ○図画工作科で、男鹿水族館の生き物を版画で表現 	<p>テーマの設定や画材の準備 教科書教材からの発展 作品応募の機会の設定 など</p> <p>児童は、GIGA 端末を含む様々な手法を使って、海を表現できるようになった。</p>
10	<p>秋田の地形や工場の仕事から考えよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校外学習；鵜ノ崎海岸散策、水産振興センターを見学し、職員の方のお話を聞く。昨年度来校された「ハタハタ博士」と再会 ○県魚ハタハタに注目；読書、しょつつるやさんへ質問の手紙送付 ○校内環境の整備（学習のあしあとを掲示） ○学習発表会で学習の成果を紹介 	<p>水産振興センター、しょつつる屋さんとの連携 教科書教材からの発展 3年生の海洋教育への取組を、保護者や他学年の児童や教員に積極的に発信</p> <p>周囲の反応を受け、児童は自分たちの活動に自信を付け、より一層意欲的になった。</p>

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

イメージをふくらませて、「海のパズル」を作ろう。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1 田口先生、小倉先生との再会 &宮添先生はじめまして ・楽しみだなあ。 ・先生方とまた会えた。 ・宮添先生ってデザイナーなんだって。	・本時の学習への意欲を高められるように、講師の先生方との出会いを大事にする。 バーチャル背景の送付 作品作りの場の設定 オンライン授業用機器の設定
2 くじに書いている海のテーマに沿って海の色をける。 ・この色が合いそう。 ・段ボールで色を塗ってみよう。 ・弾む感じで色を付けたよ。	・本時の授業に特別感を抱くことができるように、普段とは違う用具を準備したり、画材との出会いを演出したりする。 段ボール、アミ、歯ブラシ、梱包材 など あらかじめ切り分けた用紙
3 海のテーマに合わせた生き物を作って貼る。 ・どんな生き物にしようかな。 ・切った形から、こんなのができたよ。 ・ハサミじゃなくて、手で切るのもおもしろいね。	・各自、各般の活動の様子を講師の先生に伝え、子どもたちへの声掛けをしていただく。
4 各自の作品を合わせて、グループごとにパズルを仕上げる。 ・パズルだったんだ。 ・みんなのが合わさって、大きな海ができたね。	・テーマに沿って仕上げた作品について、イメージしたことを伝え合う時間を設定する。 自分で グループ内で ほかのグループと 講師の先生と

3. 今回の活動の自己評価

様々な活動を通して生き生きと活動する児童の姿から、(海を)「知る」「守る」「利用する」資質や能力、態度を育むことができたと感じている。

今年度も、当初の計画のように進まないことが多かったが、各教科の学習との関連を図りながら充実した内容にすることができた。オンラインで講師の先生の指導を受けたり、GIGA 端末を活用できたことが、今年度の大きな収穫であった。

活動についてまとめたものは、校内(市場のポスターは校外にも)に掲示したり、紹介したりするなど、他学年への展開を試みた。3年生の活動を機に、海への関心やGIGA 端末を活用した発信について、関心をもった他学年児童(と教員)が多かった。校内に海洋教育を広げる発信源となることができた。

4. 今後の課題

初年度から計画しつつもコロナ禍により実現できていない、海でたっぷり過ごす時間を設定し、みんなで共通の自然体験をしたい。その一方で、今年度ご縁がつながった3710ラボさんとのコラボや、海の砂についての分析やしょっつるやさんとの交流など、今年度の活動をさらに広げたい。来年度は、本校が採択校となる3年目なので、集大成として、よりダイナミックな内容にチャレンジしたいと考えている。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

(特になし)